

2015 活動月報

活動日時	2015年6月8日 午後13時～16時半
場 所	東京芸術劇場ミーティングルームにて
出席者	14名（ウィメンズ会員12名、RSSC7期生2名）
活動内容	<p><テーマ> 『1945年のクリスマス』 ベアテ・シロタ・ゴードン著を読んで</p> <div data-bbox="284 663 691 1182" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;"><はじめに></p> <p>今年4月に会員数名で「朗読とピアノで語るベアテ・若き日のエポック」（千代田区立内幸町ホール）という公演を聴いた際、“日本に<男女平等>の夜明けをもたらした女性の半生”という副題に惹かれた。そこで「女性が幸せにならなければ、日本は平和にはならないと思った」というウイーン生まれ、アメリカ国籍のベアテさんのことをもっと知りたいと思い、6月は皆で『1945年のクリスマス』を読むことにし、DVD『私は男女平等を憲法に書いた』（株）ドキュメンタリー工房編）も視聴した。</p> <p>課題本、DVD から、終戦後直後に日本国憲法の草案作成に携わった若きベアテさんの日本女性へ寄せてくれた熱い思いが感じられ、この人なくして今の日本の女性の人権はなかったということを改めて知った。</p> <p>研究会当日までに、それぞれ関係書籍を読んだり、憲法をコピーしてくれたり、図書館で調べたりと熱心に取り組み、更に「世界を変えた10人の女性」（池上彰氏によるお茶の水女子大学特別講義）のベアテさんの章や岩波映画「ベアテさんの贈り物」の新聞記事、またUEB上の関連記事なども見ながら、女性の人権について活発な意見交換ができた。</p> <p>途中、7期生の方から『1945年のクリスマス』の本の中に、個人的に縁のある方のお名前が書かれているという思いがけないエピソードもご披露いただき、それには皆でびっくり、更に話しが弾んだ。</p> <div data-bbox="938 1223 1377 1783" data-label="Image"> </div>

<皆さんの感想、思いなど>

- *本を読んで、DVDを見て、今まで知らずにきたことを改めて知った。
- *よく言われていることであったが、この憲法は決してアメリカからの押し付けではないということがわかった。逆にこの条項等があつて本当によかつたと思う。
- *憲法の勉強になった。基本の基である。
- *ベアテさんは戦前の日本に住んで見聞きした経験から、日本の女性の何の権利もない実情をよく理解し、憲法草案に尽力してくれた。
- *明治の憲法に女性のことが何も入っていないことにびっくりした。
- *もし、日本人の男性が作つたら、こういう憲法にはならなかつた。今日は勉強する機会が持てて、本当によかつた。
- *ベアテさんがGHQに勤務して、日本に来てくれたことに感謝！
- *せつかくベアテさんが孤軍奮闘してまとめてくれた憲法、これからは日本の女性たちがしっかり守り育てていかななくてはいけない。
- *ある程度満たされてきた我々世代はこの現状に慣れてしまっているが、今また改憲問題が喧しい。問題意識を持ちたい。



- *こうしてただ発言するだけでなく、思いを形にしていかななくては意味がないのではないか？
- *しかしながら小さな研究会では自らの活動には限界がある。せめて、身近な家族、友人たちと話し、気づきのきっかけになれば、それも意義あることではないか。

- *知るためには、やはり教育が大事、高校の授業でしっかり教えて欲しい。
- *この憲法は、日本の内側からではきっと変えられなかつた。まさに「ベアテさんからの日本女性への贈り物」である。権利は大事に行使してゆきたい。

<参考図書>

- 『日本国憲法を生んだ密室の九日間』鈴木昭典編、『憲法に男女平等 起草秘話』土井たか子／ベアテ対談、『ベアテと語る女性の幸福と憲法』高見澤たか子構成
- 『ベアテさんのしあわせのつかみかた』ベアテ著、『ベアテ・シロタと日本国憲法』ナスリーン・アジミ／ミッシェル・ワッセルマン著等々

- *次回の澤田美喜記念館（大磯）行き、掛川合宿のことを相談し、散会

(小杉：記)

